サーフィンでの死亡事故検証
“事故を減らすためのルーティーンの提唱”

寺田病院スポーツ整形外科部長 /SMAJ 湯澤　斎　　東海大学　整形外科　/SMAJ 三谷　玄弥

帝京大学救命救急部助教　/　　帝京科学大学・SMAJ:(ｻｰﾌｧｰｽﾞ　ﾒﾃﾞｨｶﾙ　ｱｿｼｴｰｼｮﾝ　ｼﾞｬﾊﾟﾝ)

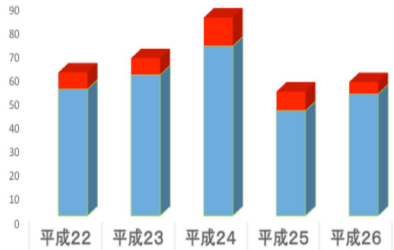
目的

サーフィンでの要救助事故や死亡事故を検証し、不幸な事故を減らすため、入水前にルーティンとすべきことを提唱する

対象・結果

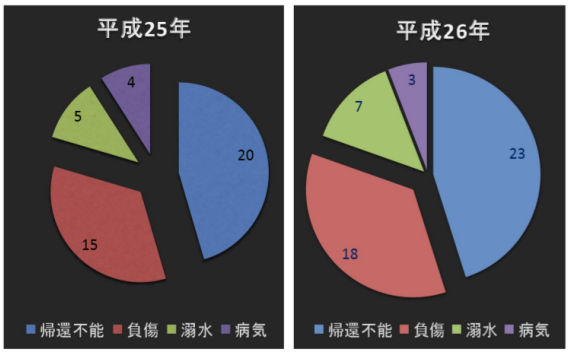
過去５年間の海上保安庁データ、気象データ、ニュースによる追跡調査を行い、死亡原因となった可能性を細かく検証した。過去５年間では、海難救助件数と死亡・行方不明者数では年間約５人以上の尊い命が失われている。海難事故の年齢層は２０歳代～３０歳代にピークがあり、次いで４０歳代が多く、日曜日に事故が最も多く次いで土曜日と次いだ。海難救助の原因としては①帰還不能②負傷③溺水④病気の順であった。

海難救助件数と死亡・行方不明者数



	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
死亡・行方不明者(人)	7	7	12	8	5
海難救助者	53	59	71	44	51

海難救助の原因



Case　1

10月7日午前6時45分ごろ、神奈川県稲村ケ崎沖合約50メートルで、サーフィンをしていた男性がおぼれているのを別のサーファーが見つけ、県警鎌倉署に通報した。男性は病院に運ばれたが間もなく死亡した。

同署によると、死亡したのは46歳男性、早朝から海に出ていたらしい。同署の捜査幹部は「発見者は波の影響で海面に浮いていた男性が泳いでいるように見えたが、様子がおかしいので近づいみたら、おぼれていることが分かったようだ」と話している。現場の海はサーフィンの名所。台風の影響でやや波が高くなっていた。同署は詳しく事故原因を調べる一方、台風の影響が大きくなることが予想されることから遊泳者に注意を呼び掛けている。

※NHKニュースより抜粋

Case　2

4月29日朝早く千葉県勝浦市の海岸で、サーフィンをしていた50歳くらいの男性が沖合いで溺れてい るのが見つかり、男性は病院に運ばれましたが、まもなく死亡しました。

29日午前5時10分ごろ、勝浦市松部の海岸で、サーフィンをしていた50歳くらいの男性が海岸 から50メートルほどの沖合いで、うつぶせになって溺れているのを近くでサーフィンをしていた人たちが見つけて消防に通報しました。男性は、海岸に引き上げられ、救急車で病院に運ばれましたが、まもなく死亡が確認されました。警察によりますと男性は現場近くの駐車場に車をとめ、29日朝5時すぎに1人でサーフィンを始め たとみられ、警察は男性が海に入ってすぐに溺れたとみて当時の状況を詳しく調べるとともに身元 の確認を進めています。

※NHKニュースより抜粋

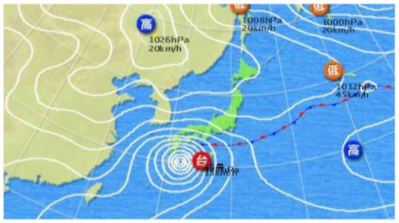
Case　3

5月2日朝、鴨川市の海で65歳の男性がサーフボードにつかまりながら漂流しているのが 見つかり、病院に運ばれましたが、まもなく死亡が確認され、警察は、サーフィンをしていて溺れたとみて詳しい状況を調べています。2日午前8時20分ごろ、鴨川市前原の海岸から8メートルほどの沖合で、男性がサーフボードにつかまりながら漂流しているのを近くでサーフィンをしていた男性が 見つけて消防に通報しました。男性は、サーファーらに助けられて応急処置を受けたあと、救急車で病院に運ばれましたが、まもなく死亡が確認されました。

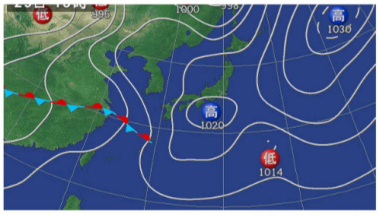
警察によりますと死亡した男性は、朝から1人でサーフィンをしている姿が目撃されていたということです。警察によりますと、当時、現場付近では雨が降っていましたが、波は比較的、穏やかだったということです。

警察は、サーフィンをしていて溺れたとみて当時の詳しい状況を調べています。

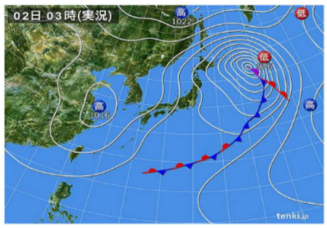
※NHKニュースより抜粋



潮回り中潮　　近海水温は23度

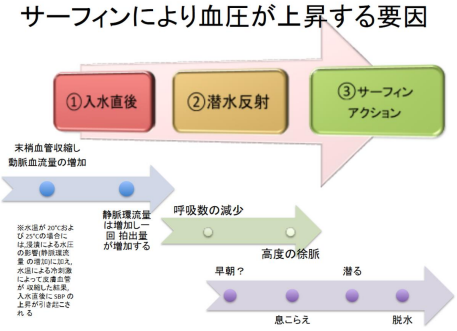


潮回り小潮　　近海水温は17度



潮回り　小潮　　近海水温は16度

サーフィンにより血圧が上昇する要因



提唱するサーフィンのルーティン

① 体調不良や寝不足でサーフィンしない
② 高血圧の人は午前中サーフィンを避ける
③ 起床後 2 時間以内のサーフィンはしない
④ 血圧を必ず測る
⑤ 軽食は摂り、脱水には注意が必要
⑥ リーシュまわりを念入りにチェック
⑦ 入水前に徐々に心拍を上げる
⑧ ウエットスーツはは暑すぎず、寒くないもので、温度差には細心の注意を
⑨ 水温が 23 度以下の場合は血圧上昇に注意(前日確認
⑧ 1 月～5 月、12 月は 20 度以下の水温である可能性があり注意が必要